

明治七年六月

履歴書

熊谷縣貫属
前橋佐士族
八木始

09702
1380

明治元年戊辰後四月八日於旧前橋藩左之通被命
半隊司令官申付候
但レ戸主ニテ別ニ拾人口ヲ賜フ
右、舊主松平大和守直克出京中ニ付舊執政根村豊後申渡ス
同年同月同日舊會津藩信越

ノ間ニ屯集シ上野ヲ襲ハントス聞ヘアリ依テ東山道総督府上野ノ舊諸藩ニ命シテ兵ヲ出サシム舊前橋藩モ命ヲ受ケ兵士六十餘名ヲ出ス舊同藩士族木村榮吉小隊司令官臣始半隊司令官トナリ即日前橋ヲ發シ沼田ノ城ニ至ル同十九日豊永原ノ兩巡察使

ヨリ斥候隊トシテ其藩兵隊一小隊三國嶺へ出兵致ス可ク旨命ヲ判即夜木村臣始ト一小隊ヲ引率シ沼田ヲ發シ同廿一日三國嶺ニ達ス賊數百三國嶺ノ般若塚ニ野砲臺ヲ築キ柵ヲ構其靜ナル人無キカ如シ則テ兵士ニ命シテ手銃ヲ其内ニ發セシム賊大ニ時

ノ聲ヲ擧ケ發砲ス我ヨリモ又發砲ス互ニ殺傷ナシ賊ノ動靜地形等探知スルニ依テ三國嶺ヲ下テ長井ノ驛ニ至リ巡察兩使ニ復命シ同二十三日故アツテ小隊司令官木村榮吉巡察使ノ命ニ依テ前橋ニ使ス臣始木村ニ代ワリテ小隊司令官ヲ心得可ク旨巡察

②履歴書

明治7 (1874) 年6月

これは、熊谷^{かんぞく}縣貫属士族・前橋石川小路居住、旧禄150石・改正高現米26石、当時学区取締^{がつくとりしまり}勤だった八木始^{やぎはじめ}長綱の履歴書です。明治元(1868)年の戊辰戦争における三国嶺(峠)の戦功から第17番中学区取締に任命される明治6年7月までの履歴が記されています。中でも三国嶺の戦いの様子が詳しく書かれています。八木始は、藩から「半隊司令官」を命じられ「小隊司令官」木村榮吉とともに前橋藩兵60名を率い、信越国境に集まった会津藩兵と三国嶺で戦い、敵将弟の町野久吉の首級を挙げる活躍を見せています。

八木健次家文書 P09702 No.1380

【史料②】 履歴書

明治七年一月齡二十九
一明治元年戊辰後四月八日旧前橋藩に於いて、左の通り命ぜらるる
半隊司令官申し付け候
但し戸主にあらざるを以て別に拾人口を賜う

右は旧主松平大和守直克出京中につき、旧執政根村豊後申し渡す
一同年同月同日、旧会津藩信越の間に屯集し上野を襲わんとする聞えあり、依って東山道総督府上野の旧諸藩に令して兵を出さしむ、旧

前橋藩も命を受け兵士六十余名を出す、旧同藩士族木村榮吉小隊司令官、臣始半隊司令官となり、即日前橋を發し沼田の城に至る、同十九日豊永・原の兩巡察使

より斥候隊として其藩の兵隊一小隊、三國嶺へ出兵致すべく旨命あり、即夜木村・臣始と一小隊を引率し沼田を發し、同廿一日三國嶺に達す、賊數百、三國嶺の般若塚に野砲臺を築き柵を構え、其の靜かなる人無きが如し、則ち兵士に命じて

手銃を其の内に發せしむ、賊大いに時の声を挙げ發砲す、我よりも又發砲す、互いに殺傷なし、賊の動靜・地形等を探知するに依って三國嶺を下りて長(永)井の驛に至り、巡察兩使に

復命、同二十三日故あつて小隊司令官木村榮吉、巡察使の命に依つて前橋に使す、臣始木村に代わりて小隊司令官を心得べく旨、巡察

し攻撃の策を議す。

復命、同二十三日故あつて小隊司令官木村榮吉、巡察使の命に依つて前橋に使す、臣始木村に代わりて小隊司令官を心得べく旨、巡察

使ヨリ命アリ此日上野ノ諸藩
長井ノ驛ニ集ル明工十四日未明曉
般若塚ノ賊ヲ進撃ノ議決舊
藩一小隊ノ内半小隊ヲ長井ノ驛
ニ置キ後拒トナシ上野各藩ノ兵
ヲ本道間道トニ分ツ本道先鋒
旧高崎藩第二陣佐野藩臣始
第三陣トナリ半隊ヲ率ヒテ豊

率

永巡察使ニ從ヒ本道ヨリ進ミ曉
霧ニ乘シテ賊ヲ襲フ賊又野砲
真臺ニ依リ大小砲ヲ以テ應ス彈丸
雨ノ如シ砲戰數時勝敗未タ不
決砲擊甚盛シト時ニ至リテ間
道ノ軍達シ横ニ撃ツ賊支ル能ハ
ス賊將町野久吉自ラ姓名ヲ名
乘リ鎗ヲ携ヘ急ニ我軍ニ迫ル

臣始數歩ノ間タニ狙撃シ是レ
ヲ斃シカヲ以テ首ヲ斬ル鎗ト刀
トヲ分取ル此他死傷互ニ數名ア
リ諸軍勝ニ乘シテ尾撃シ越
々淺具驛ニ至テ止ム同二十五日尚追
尾シテ六日町ノ驛ニ至ル同二十七日
凱旋シ五月一日沼田ニ歸ル
同年同月六日町ヨリ沼田ニ歸陣

途中豊永原ノ兩巡察臣始ヲ
呼ビ金八拾余圓ヲ附シ是ノ金ハ
賊將町野久吉ノ所持スルトコロ
死體ヲ探クツテ得ル者アリ他
スニ附スルヲ謂レナシ功ニ依テ子ニ
賜フト臣始忝キヲ拜謝シ納メ
テ陣營ニ歸リ兵士六十餘名ニ
盡ク分チ與ヘ勞苦ヲ慰ム

使より命あり、此の日上野の諸藩明
長井の驛に集まる、明工十四日未明曉
般若塚の賊を進撃の議決し、旧
藩一小隊の内、半小隊を長井の驛
に置き後拒となし、上野各藩の兵
を本道・間道と二に分つ、本道先鋒（鋒力）
旧高崎藩、第二陣佐野藩、臣始
第三陣となり、半隊を率いて豊
永巡察使に従い、本道より進み曉
霧に乘じて賊を襲ふ、賊また野砲
台に依り大小砲を以て応ず、彈丸
雨のごとし、砲戰數時勝敗未だ決せず
砲撃いよいよ盛ん、十一時に至りて間
道の軍達し横に撃つ、賊支える能わ
ず、賊將町野久吉自ら姓名を名
乗り鎗を携へ急に我が軍に迫る
臣始數歩の間だに狙撃し、これ
を斃し刀を以て首を斬る、鎗と刀
とを分取る、この他死傷互いに數名あ
り、諸軍勝に乗じて尾撃し越
々の淺具驛に至りて止む、同二十五日尚追
尾して六日町の驛に至る、同二十七日
凱旋し、五月一日沼田に歸る
一 同年同月、六日町より沼田に歸陣
の途中、豊永・原の兩巡察、臣始を
呼び金八拾余圓を附し、この金は
賊將町野久吉の所持するところ
死體を探ぐつて得る者あり、他
人に附するの謂れなし、功に依りて子に
賜うと、臣始忝きを拜謝し納め
て陣營に歸り、兵士六十餘名に
ことごとく分かち与え勞苦を慰む
(後略)